# 第６回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日　時：平成 29 年 5 月 24 日（水）　午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
会　場：鳥取市役所　本庁舎 6 階　小委員会室
出席者：≪委員≫
山下 恭史　委員長、山下 博樹　副委員長、倉持 裕彌　委員、石畑 美幸　委員、
清水 はるみ　委員、玉木 真人　委員、福山 裕正　委員
≪鳥取市≫
事務局／河口行財政改革課長、河上行政経営係長、藤原主任、岩田主任

---

## 会議概要（事務局による要約）

### １．開会

**河上係長：**

それでは定刻になりましたので、第６回行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第５条第２項に、「委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とされていますが、本日は全１０名のうち７名にご出席いただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告申し上げます。それでは開会に先立ちまして行財政改革課長よりご挨拶申し上げます。

**河口課長：**

行財政改革課長の河口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

２年前まで行財政改革課の課長補佐をしており、主計員から８年間、財政の担当をしておりました。当時、直接この市民委員会に携わったことはありませんでしたが、公開ヒアリングを実施するなど、この市民委員会が市役所の深いところまで議論していただいていたと思っております。併せて昨年度議論いただいた経過を見ても、この市民委員会が職員にとって最も重要な会ではないかと思います。本日で６回目となりましたが、昨年度に引き続きご議論いただきたいと思います。

それから鳥取市は来年４月の中核市移行を目指して取り組みを進めています。中核市になりますと、近隣町の業務も全般的に引き受ける保健所業務が始まりますし、これまで県が実施していた教職員の研修も自らが行うようにもなります。鳥取市としては新たなステージに立つ大きな変革の年となりますので、皆さまがご議論いただいた内容を組織の中でしっかりと活かして、職員も組織も成長していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

**河上係長：**

では引き続きまして山下委員長より開会のご挨拶をいただきたいと思います。

## ２．あいさつ

**山下恭史委員長：**

こんにちは。季節の変わり目であったり、組織にあっては年度替わりのお忙しい中での開催となりましたが、お集まりいただきありがとうございます。今日は次第にありますように、中間報告書の案が出来ておりますのでこれについてご議論、最終確認をいただきたいと思います。また今年度新たに取り組むものについて、委員のニーズも踏まえた案が事務局から出されています。

先ほど課長さんから中核市という話もありました。東京五輪を例に出すまでもありませんが、新しいイベントがあるとどうしても予算が大盤振る舞いになりがちです。その中で本当に今の財政規模でいいのか、またはこの事業が将来的に鳥取市にとって利益を生むのか、あるいはもっと集中投資したり削減したりするところはないかというようなところが、この委員会でも今後議論していく、検討課題の一つになるのではと思っております。

それから、今年度が深澤市長の一期目の最終年度だと思います。そういう意味ではこれまでの深澤市政になってからの事業について、この専門家や市民の目が入った市民委員会での議論を深めていかなければいけないのではと思っています。

この中間報告書については、市当局に提出して恥ずかしくないような完成度になっているかと言えば、正直もう少し議論を深めていった方が良かったかなと思う部分もありますが、ひとまず途中段階の取りまとめとしていきたい。そして最終報告に向けてはさらに委員会の議論を深めていきたいと思います。委員のみなさまには今後もご負担をおかけすることもありますが、皆で一緒に勉強していければと思いますのでよろしくお願いいたします。

**河上係長：**

ありがとうございました。それでは以後の進行は山下委員長にお願いいたします。

## ３．議事

**山下恭史委員長：**

それではまず次第に従いまして、お手元の中間報告書案について、まず事務局から説明いただいて、それから皆様のご意見ですとかご質問も交えて意見交換していきたいと思います。では事務局からご説明お願いします。

**岩田主任：**

～資料２について説明～

**山下恭史委員長：**

はい。ありがとうございました。ただ今事務局から中間報告書案の中身についてご説明いただきました。この中でちょっと表現を変えた方が良いのではないかですとか、こういうものを付け加えた方が良いのではないか、ということがあればご意見を頂戴

したいと思います。倉持委員さんいかがですか。

**倉持委員：**

おそらくここまでの作業内容に関しての中間報告だと思うので、特にはありません。

**山下恭史委員長：**

そのほかご意見は。石畑委員さんいかがですか。

**石畑委員：**

はい、書いてある内容も問題無いように思いますし、分かりやすい表現になっているのでよろしいかと思います。

**山下恭史委員長：**

「私はこういう意見を言ったけれど盛り込まれていないから追記してほしい」といったことなどはありませんか。

**山下博樹副委員長：**

ちょっと質問させていただいてよろしいでしょうか。この中間報告書が今の時点で作成されて、どういう風に活用されるのかを教えていただけますか。

**岩田主任：**

はい。添付資料３に今後の対応をまとめてあります。ではこの資料の説明をさせていただいてよろしいですか。

**山下恭史委員長：**

はい、お願いします。

**岩田主任：**

～資料３について説明～

この資料では先ほどの報告書にあった大きく２つの評価結果「個別事業に対する評価および改善案の提言」と「第６次行財政改革大綱実施計画の評価」について、今後どのように対応するかをまとめてあります。

まず前者について。これは本日中間報告書がまとまりますので、担当課にこの内容を通知してまいります。その後担当課は、評価提言内容に対する取り組みを、場合によっては予算要求の必要性も含めて７月ごろまでに検討します。そしてその結果や途中経過を皆様にご報告させていただきたいと考えております。

次に後者について。ここでは大綱全体について３つのご指摘がございました。まず１つ目の「評価シートの的確な記述について」はすでに対応を始めております。平成２９年度の計画を入力する前に入力マニュアルを作成し各課に記述内容の徹底をしております。それでも不十分なものについては個別にヒアリングをしながら修正をしているところです。それからどうしても同じ記載内容が繰り返されるものについては、通常業務（ルーチン）化している可能性があるので、それらについては、大綱上での進捗管理を完了するという、大綱そのものの運用ルールを内部で整理し直しました。２つ目の「妥当性を欠く、または分かりにくい指標の見直しについて」と３つ目の「十

分な情報収集に基づく分析について」というものは、今後皆様のご意見も踏まえながら改善していければと考えております。

**山下恭史委員長：**

よろしいですか。

**山下博樹副委員長：**

はい。

**山下恭史委員長：**

従来のパターンですと最終報告書が出来上がった時点で、委員長と副委員長が市長にこういうものが出来ましたという報告と意見交換をする会を設けておりました。このたびの委員会でもそれを予定されているかは分かりませんが、仮にそれがあったとしても年度末ですので、実際に我々の意見が反映されるのは１年先になるわけですね。

それでこの中間報告の中で一番重要なのは、（１）の個別事業への評価ではなく（２）の全体に対する意見の部分だと思うんです。これについては先ほど副委員長からの質問に回答されたように、この大綱の運用方法をどう変えていくかを考えることが必要だと思います。全体で入力内容に統一感がない、入力フォームが不十分である、指標の設定が妥当かどうかというのは以前から意見として挙がっていたことです。これについて行財政改革課が全庁的に横ぐしを指して修正しようとしても、入力するシステムを変更する予算がなかったりして微調整をしてきた結果現在の状況にあります。ただこのように評価シート自体に対する意見が繰り返されるということは、この評価シート（システム）自体に無理があると思うので、この全庁に関わる部分の意見交換をして、平成３０年度以降にシステムを直していくという検討をしてほしいと思います。このような内容を、本部長さん（副市長）に中間報告と併せて意見交換をさせていただけたらと思います。

**河口課長：**

委員長のただ今のご意見、ごもっともだと思いますので、本部長は副市長ですから大至急意見交換の場を持たせていただきます。本日のご議論の結果、これで良ければ中間報告ということでお示しをして、直接副市長にお話しいただくという形をとらせていただきたいと思います。確かに平成３０年度の予算編成の動きが夏過ぎから動き始めますので、そこに反映させようと思えば早い段階で、行政の政策決定の立場の副市長にお話しいただくということが良いと思います。速やかに日程調整いたします。

**清水委員：**

質問です。３の（１）「個別事業に対する評価および改善案の提言」の④に砂の美術館と周辺エリアについて書いてありますが、内容を見ると施設や周辺にある既存の建物に関してのみ書いてあるように読めます。例えば出雲大社は夕日が綺麗だということでそれも有名になってきています。私はそのような周辺の環境も含めた考え方が必要だと思いますが、ここではそういうものも含まれているのでしょうか。

それから砂像文化を根付かせるということについて「未来の砂像彫刻家の後継者育成のため」と書いてありますが、市がお膳立てしてプロ彫刻家の後継者を育てて行けばいいというものではなく、市民全体に定着させていくようなことが、文化が根付くということだと思います。ここの内容では、例えば小学校で砂像文化に触れるような教育を行うなどして、自然と市民の心に定着させていくような考え方も含まれているのでしょうか。

**山下恭史委員長：**

これは事務局よりも私から、委員長としてお答えしたいと思います。ここでの記述はこれまでの委員会の中で議論したものをまとめたものです。これまで議論に挙がった内容であればいいですが、今ここで新たに出たご意見をその都度追加していくといつまでも中間報告書がまとまりません。ただ今のご意見については私が市側に正式に報告を行う際に、「周辺の景観も含めてPRする方法をご検討ください」と、この報告書に意見を付していくようにします。

それとお話にありました小学生への教育ですが、これはすでに市でも観光コンベンション協会でも行われていますし、文章中の「市民に根付かせる取り組みを広げていく」という表現で包含できていると考えています。

**清水委員：**

表現としてどうかなと思ったものですから。

**山下恭史委員長：**

わかりました。では最終報告書のとりまとめの際にはそのような表現も含めて文書構成をしていきたいと思います。ただ今回の中間報告書に関しては先ほど申し上げたように、あくまで今までの委員会で出たご意見を取りまとめたものとしておりますし一旦区切りとして完成させてしまわなければいけないので、この内容とさせていただき、私が報告の際に先ほどのニュアンスも説明していくということでご了解ください。

**清水委員：**

そのようにお願いします。

**山下恭史委員長：**

そのほかございますか。

**岩田主任：**

一点よろしいですか。先ほどの私の説明で、３の（１）の①で、説明書きに「例：情報発信したら上乗せサービス」と表現しているものが分かりにくいということがありました。その修正について「例：SNSでの紹介やグルメサイト等での評価を入力した客様への割引サービスなど」とさせていたくのはいかがでしょうか。

**山下恭史委員長：**

よろしいんじゃないでしょうか。皆さんいかがですか。

**福山委員：**

分かりやすいので良いと思います。

**一同：**

同意

**山下恭史委員長：**

ではそのようにお願いします。それとこの中間報告書に委員名簿がないので添付しておいてください。それでは中間報告書としてはこの案で最終としたいと思います。若干の誤字や言い回しの微調整は事務局に一任ということにいたします。

次は次第の（２）今後の協議テーマということです。これは皆様からのご要望であるとか鳥取市の優先課題というものをベースに、事務局案が作られています。これについては事前に皆様にも項目だけはお送りしておりまして、その時点では特にご異論がなかったかと考えております。ですがこれに限るものではありませんので、もしこの場で追加があればご意見いただきたいと思います。

このあと、現在の案について事務局から選定理由も含めてご説明いただきますが、その前にすでにご意見あれば一度お伺いします。いかがでしょうか。

**福山委員：**

特にはありません。

**山下恭史委員長：**

では事務局から選定理由も含めて簡単にご説明いただけますでしょうか。

**岩田主任：**

～資料４、５、６、７について説明～

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。この議論に入る前に、一度今後のスケジュールを確認できませんか。事務局側がこの時期にはこのようなことをしたいと考えているといったことも含めて。

**岩田主任：**

今年度の開催見込みとしては、まず本日５月２４日の終了後、次が７月、そして続きますが８月にも第８回目の会を行いたいと思っております。そして９回目を１０月、１０回目を１１月。そのあとは年が変わりまして平成３０年を迎えてから３月ごろに最終報告の取りまとめを行いたいと考えております。

ですので実際に議論を深めていくのは、７月、８月、１０月、１１月という残り４回くらいになると考えておりまして、そこで出たものを３月に向けて取りまとめてまいります。

**山下恭史委員長：**

ですから年内の７月から１１月までの４回で議論を深めて、全１２回の最終２回で取りまとめに至るということですね。予定としては。

資料請求など時間がかかるものもあると思うので、その辺との兼ね合いでスケジュ

ール通りいけるかどうかですね。その辺には担当課にもお世話になりながら進めて行ければと思います。

少し本日の議題から逸れましたが、元に戻しまして各評価シートの中身に入っていきます。施策１と２がありますが、初めに施策２の ID21～24 について取り上げていきたいと思います。次回、担当課からの説明はありますが、今の時点で不明な点や資料の請求をしておくことで、担当課も事前準備ができますしスムーズな意見交換になると思いますので、皆様からそれぞれご質問、資料請求等のご発言をいただければと思います。

**岩田主任：**

各実施計画の内容についてではありませんが、評価シートの書き方が昨年度と一部変更になっているところがございますので、そこだけ説明させていただいてもよろしいでしょうか。

**山下恭史委員長：**

お願いします。

**岩田主任：**

はい。この評価シートに記載されている項目の意味についてご説明します。まずシート上部の[取り組み内容]に記載されている内容が、今現在進めている事業です。そしてそのすぐ下の項目に[取り組み実績]とありますが、これは過去に実施してきたことを抜粋して書いてあります。さらにその右側にある[年度別計画]という項目には今後、年度ごとにどのような取り組みをしてくかの予定が書かれています。このように過去と未来とを見比べられるように書き方を変更しております。

**山下恭史委員長：**

はい。では ID21 の内容について、先ほどお話しした通りご質問等あればお願いします。

**清水委員：**

婚活サポートセンターについて、誰が携わって、どんな団体が関わってということが見えないので、組織図ですとかそういうものが分かる資料をいただきたいです。

**山下恭史委員長：**

これについては以前にも質問があり、担当課からは「事業内容についての周知を図り、理解を深めていきたいと思います。」との回答があったので、次回何らかの内容を示していただきたいです。併せて、たくさんのイベントを実施されて参加も多くあるようですのでそのあたりの実績も、各イベントごとに示していただけるとありがたいと思います。

**清水委員：**

それから補助金なのか分かりませんが、予算がいくら出ているかも教えていただきたいです。個人的には行政が率先して行う取り組みでは無いように思っておりまして、

どのようなことにいくら使われているかが知りたいです。

**山下恭史委員長：**

そのほか資料請求や内容の説明依頼でも構いませんのでございませんか。

**山下博樹副委員長：**

参加した方へのアンケートですとか何らかの調査がしておられればその結果を教えていただきたいと思います。

**石畑委員：**

イベント参加者数を見れば多いなと感じますが、実施回数で割ると１回あたりの参加者は少ないのかなと思います。リピーターの方もいらっしゃるでしょうし初めての方もいらっしゃると思いますが、参加者の定員や参加者の実態はどうでしょうか。月４回と開催回数も多いように感じますが、一回のイベントにたくさん集められた方が出会いの機会も増えると思いますし、費用のかけ方としても変わってくるのでそういった参考情報をいただければと思います。先ほどもあったように本当に行政がやるべきことなのかということも含めて、今後どのように進めて行く考えなのかを教えていただきたいと思います。

**清水委員：**

このような取り組みは、民間の団体や個人でもボランティアなど無料でやられていものも多くあります。この事業のように行政が有料でイベントを行うことによって、いままで無料でしていたものが有料になるということも起きつつあります。行政がお金を取っているんだから我々もお金を取るのは当然だろうという感覚ですね。

儲けを重視したような実施者も出てくると思うので、このように行政が税金を投入して大っぴらに事業展開するのはどうかと感じています。

**山下恭史委員長：**

そのほかございますか。玉木さんいかがですか。

**玉木委員：**

鳥取県でも「えんトリー」という名前で同様の事業をしていたと思います。そことの違いがあれば教えていただきたいですし、連携などもしておられるのであればそのあたりもお伺いしたいです。

ホームページを見ると“ウォーキング婚活”とか“食を楽しむ婚活”とか“節約したい節約好きの婚活”とかいろいろな切り口でやっておられるようですね。今調べてみましたがこんなにいろいろやっているのかと今回初めて知りました。

**福山委員：**

いずれにせよ、どんな効果が結果として現れているのかというのが大事だと思います。先ほどのご意見とは反しますが、私は民間で効果が出なければ行政でやってもいいと思います。ですがやるからには費用対効果がどうかというところと、人口を増やすという観点からどうかというところを重要視しないといけないです。

私は郡部に住んでいますから感じますが、もっと深刻な状況が発生しています。「家」そのものがなくなってしまうんではないかという切実な問題が、郡部の奥に行けばより大きくあります。そのような部分も視野に入れてどのような効果があるかを示していかないといけないと思います。また、話は若干それますが、以前私は家具を売っておりまして、その時はビジネスのために仲人協会というのに入会していました。このように結婚というものの影響は様々なところで出てくるので、広い視点でこの事業の価値を考えていく必要がありますし、手段についても、昔のような世話好きな周囲の人間が少なくなっている以上、有料でも機能的で質のいいサービスができればいいのではと思います。

ですから目的や手段、効果について改めて見直してみるということが今必要ではないでしょうか。

**清水委員：**

今、２０代から３０代の人が減ってきていますよね、この現状から見えてくるのは、やはり経済の問題だと思います。鳥取県の出荷額は全国でも下位ですし、そういうところが改善していかないと、単に婚活だけで人口が増えていくとは言い切れないと思います。例えば豊岡は鞄産業が盛んでそこで働く若い人たちが入ってきて定住しています。このように産業に魅力がないのに、婚活にお金をかけているのはいかがかなという風に感じています。

**山下恭史委員長：**

はい、ではその話は担当課を呼んだ際に聞いてみましょう。

そのほか倉持さん何かありますか。

**倉持委員：**

資料６の中で、「地域を中心に何らかの支援が必要との声も少なくありません。」とあって、ここが政策根拠になっていると思いますが、これについてもう少し詳しく教えていただけたらと思います。実際にそれほどニーズが多いのでしょうか、というところと、仮にそのニーズが確かなものだとして、この指標に掲げている成婚組数３０組という設定根拠が妥当なものかというところですかね。まるで教育の効果として〇〇大学に何人入学したというようないかにも行政の評価指標という感じがして、現時点で代替案があるわけではありませんが、もう少し成果を測る方法が何かあればなとは思います。その辺のお話が伺えたらと思います。

**山下恭史委員長：**

他にありませんか。追加があればまた事務局にご連絡いただくということにさせてください。では次のテーマに移ります。ID22 について、ご質問などあればお願いします。

**清水委員：**

不妊治療の補助制度は、国と同じレベルの補助制度でしょうか。それとも国の制度

以上に拡充しているようなものでしょうか。国の制度との違いが分かるような資料がいただけたらと思います。

**石畑委員：**

平成２８年度の四半期の実績を見ると「現時点で新規助成件数はやや増加しているが」とありますが、どのように推移してきているのか、資料があればお示しいただきたいと思います。

**山下恭史委員長：**

私からも一点。先ほども話題に挙がっていましたが、ここに限らず各事業の事業費というのが重要かと思います。予算規模ももちろんですが費用対効果を考えるうえでも。ですのでそれぞれの予算が分かる資料を、できればそのうち国の助成がいくらでといったような内容までのものをご用意いただけたらと思います。それから欲を言えばその事業に職員がどのくらい携わっているかも分かると議論が深まるかと思いますのでお願いできたらと思います。

**岩田主任：**

今ご意見いただいた予算について、担当課と協議して用意させていただきます。

**清水委員：**

県は対象年齢を下げられましたね。それに比べると市の取り組みの方向性はここからは分かりにくいかなと思います。

**山下恭史委員長：**

ただこの事業は県のものとバラバラということはないですよね。

**倉持委員：**

全く別々の制度ではないはずですよね間違いなく。

**河口課長：**

確かこれは、県の助成を使いながら市が一緒にやるという事業のはずです。対象年齢を下げるというのも以前の予算要求の段階では議論しました。以前は対象年齢というのはなかったはずです。が、調べてみるとやはり比較的若い方の方が効果が出やすいということで制度の改革というものをしてきたところです。

**山下恭史委員長：**

おそらく別々のものであるならば市の事業は必要ないということになりますので、そこが分かれば。

**福山委員：**

一体化したものでしょうねこれは。

**山下恭史委員長：**

ええ。その資料かご説明をいただくということでお願いします。他にはありませんか。

良ければ私から重ねて何点か。これに限らずですが、こういった類の助成制度とい

うのは予算に縛られているのではないかなと思います。来るもの拒まずで足りなくなったら予算を追加するというものではないのじゃないかなと。ですので過去の予算と実績が並べて見られるようなものをここ数年分で良いのでいただけないかなと思います。それと今現在どのような指標が適正と考えているか。案でもあればお聞かせいただきたいということ。そしてこの制度自体が使いやすいものであるかどうか。対象者から見て申請窓口が複雑であったりしないかというところを、申請方法が分かるようなものを資料としていただきたいと思います。

**清水委員：**

いずれにしても何度も受けられるものでもないと思いますので、助成の限度はあってしかるべきものだと思います。

**山下恭史委員長：**

それからシート右上の[目標・達成予定年度]というところに、次世代育成優秀企業認定制度というものを検討されるとありますが、今時点で何かお示しいただけるものがあればいただきたいと思います。併せてこの事業の中心である不妊治療補助制度、不育治療補助制度についての資料もいただけるといいかなと思います。パンフレットのようなものでも構いませんので。

そのほかよろしいでしょうか。なければ次の ID23 に移ります。ご質問等あればご発言ください。

**清水委員：**

よろしいですか。たしか第２子から無償化されるという話だったものが、途中で予算がないから第３子からという風に変わったと思います。ただこれだけ子ども数が少なっている状況で、３人以上の子供を持つ家庭も少ないので第２子から無償では良いのではないかと思います。社会保障は手厚く、先進国でありながら子供にかけるお金が貧弱であると不満を持っています。このあたりの考え方をお伺いしたいです。

**山下恭史委員長：**

第２子無償化の話は鳥取市が言っていましたかね。

**清水委員：**

確か鳥取市でした。新聞でその記事を見て、こんな予算の付け方があるだろうかと思いました。

**山下恭史委員長：**

そのあたりの確認も含めて担当課にお話しいただきましょうか。

**石畑委員：**

ID23 と ID24 に共通してですが、四半期計画のあたりの記述が少なくて事業の詳細が見えないなと思います。それから指標のところでは病児保育の利用者が延べ人数で示されていますが、今現在どのような施設で何人ずつ受け入れが可能でこういう結果になっているのかということが分かればと思います。それから費用的な部分ですが、私

が以前利用した際は１日２０００円から３０００円程度必要だったと思います。そういう条件も含めて利用しやすさであるとか、いろいろな方が気持ちよく使えているかというのが、この指標だけでは評価できないかなと思います。

**山下恭史委員長：**

よろしいですか、施設であるとかキャパシティ、あるいは利用率とか利用料金と言ったものを含めた資料がまとめていただければと思いますのでよろしくお願いします。

**倉持委員：**

よろしいですか。他の事業でもそうですが、そういった資料を用意していただくときに、鳥取市単独の数字だけ見てもいまいち分からないと思います。例えば全国平均ですとか県内平均と比べてどうなのかとか、そういう比較対象を付けていただいた方が分かりやすいと思います。このシートにも「重点化」とか「強化」という言葉は出てきますが、鳥取市がどのくらい他と比べて強化しているのかとか力を入れているのかということは、そういう指標を見ないと分からないと思いますので。先ほどの予算の話もそうですが、我々が考えるうえでの引っ掛かりがほしいというのはどれにも言えると思いますのでこの辺をお願いできたらと思います。

**山下恭史委員長：**

そのほかどうでしょうか。良ければ ID24 に行きたいと思います。

**清水委員：**

この放課後児童クラブですが、どれだけの地域で実施しているのかを教えていただきたいです。

**石畑委員：**

平成２８年度の四半期ごとの進捗状況に関しては設備面の報告が主になされていますが、この事業の行財政効果を見ると「働く世代の負担を軽減し、少子化解消を図ります。」となっています。現状の取り組みが、実態として本当に必要な人たちに手当されているのかや、ここでいう効果にどのように結びついて言っているのかが分かるような資料がいただければと思います。

**山下恭史委員長：**

ただ今のご意見は「質」の部分について触れられており、この「質」というものを資料として表現するのも難しいとは思いますが、先ほどもありました、施設の定員数や利用者、料金といった資料に、併せてどの程度の職員がいるかなども示していただくなど、可能な範囲で資料をご用意いただければと思います。

**福山委員：**

定員などの理由から「利用したいけれどできていない」というような実態はあるのでしょうか。郡部の方と中心の方では違いもあるのかなと思いますし。

**山下恭史委員長：**

確かにそれはあるでしょうね。預けたいけれど近くにないというようなこともある

でしょうし。指標を見てみると目標に対する実績がほぼ１００％ですのでキャパシティいっぱいの状態なのかもしれません。ですから平成２９年度の目標値も上向きにされて、実際の取り組みとしてもいろいろな地域に拡充されたり分割をしたりという努力をされているようですね。

以前出た質問への回答に、「鳥取市放課後児童クラブ連合会において、保護者の意見の集約に努めたい。」とありますが、このあたりの集約結果などに先ほど石畑さんからありました「質」のことや福山さんからの「利用したいけどもできない」というような実態が現れてくるかもしれませんので、このあたりも資料として提示していただけたらと思います。併せてその意見に対して担当課がどのように対応していこうとされているかもお教えいただけると議論が深まると思いますので、できたらお願いします。

**清水委員：**

高齢者を上手に活用する仕組みができたらいいと思います。老人クラブなどにたくさん補助金が出ているのではないかと思いますので、そういう団体に協力してもらって、この放課後児童クラブのような未来につながる取組を進めて行ければいいのではないでしょうか。

**山下恭史委員長：**

ではそのご意見も担当課に伝えて、次回の委員会でお考えを伺いましょう。

そのほかこの ID24 についてご意見などありませんか。良ければ ID19 に行きたいと思います。ご質問等あればご発言ください。

**山下恭史委員長：**

委員のみなさんが内容を読んでいただいている間に、初めに私から。評価シート右上の[目標・達成予定年度]には平成２６年度から平成２９年度の４年間で５０００人以上の雇用を創造しますとあります。これに対し指標で示される数値は、備考欄を見ると「戦略に基づく事業実施に関連した企業の雇用実績をヒアリングしている」とあります。したがって最終目標である５０００人はこの事業に該当する雇用の積み上げという認識で間違いないかを確認させてください。

また、この認識が間違いないとすれば、それは鳥取市に数多くある企業の中から一部をサンプリングして実績とされているということになります。この対象企業というのは誘致企業ですとか新たに創業されたものだと思いますので、当然雇用の数はプラスになっていきますよね。現在企業間での雇用が流動化していますので、地域で見れば雇用が増えたところもあれば逆に減っているところもあると考えられます。そう考えると、鳥取市全体で本当に５０００人もの雇用が増えていると言えるのかどうか。このあたりの担当課のお考えをお聞かせいただきたいと思います。もちろんこの ID19 の取り組みの指標として、現在の表現で進めることは方法論としてあり得ると思いますが、そもそもの部分のお考えをお話しいただきたい。

**清水委員：**

今のお話に企業誘致ということが出てきましたが、その誘致のためにどの程度のお金を使われているのか。それとその企業が何人雇用しているのか、正規なのか非正規なのかも含めて分かれば教えていただきたいです。

**山下恭史委員長：**

他にありますでしょうか。玉木さんいかがですか。

**玉木委員：**

そうですね。先ほど委員長からのお話もありましたように、この実績は既存の地元企業からは取っていないと思いますので、おそらく本当の雇用状況の全体像とはマッチしていないと思いますね。

**福山委員：**

これについてはいろいろな見方があると思います。河原の工業団地に大きな会社が誘致されて、夜遅くまで稼働されてそれは良いことだとは思います。ですがその企業の雇用を地元採用ということだけにこだわりすぎると、既存の家内工業のようなところから大事な人材が吸い取られて、地元が空っぽになってしまうのではないかなという懸念もあります。逆に地元採用というこだわりに執着せずに、誘致企業は他県から従業員も連れてきて操業してもらうということも、一方ではメリットもあるのではないかと思います。

また外からの誘致と併せて、起業の支援も熱心にされています。私も１０年前に地域振興課のお世話になって用瀬で生計を立てて住むようになったということもあります。こういった取り組みについても今後どのようにされていくのかお話を伺いたいです。

**山下恭史委員長：**

［年度別計画］のところに「起業のまち創造プロジェクトの推進」それから「アドバイザーの配置」「アドバイザーの派遣」とありますが、もう少し内容が分かるようなものを、どのくらい起業できたかという成果も含めてご用意いただけたらと思います。

**清水委員：**

内部向けの話ですが、企業誘致というのは将来的な展望を見据えて行わなければいけませんので、それに携わる経済・雇用戦略課の職員には経営的素質が必要になってくると思います。そのあたりの人材育成をどのような研修などを行ってしているのかを教えていただきたいです。

**玉木委員：**

この評価シートの四半期実績には、起業・創業のスタートアップに関わる内容が書いてあるのですが、それだけを集計するとおそらくこの指標のような千何百という数にはならないと思います。ですので指標と事業内容のミスマッチがあるのかなと思いました。ここでは起業・創業を支援しますということが言われていますので純粋にそれで生まれた雇用数が知りたいかなと思います。

**山下博樹副委員長：**

何年か前に鳥取市の雇用創造の委員をしたことがありますが、確かその時は千人か二千人の雇用を増やすと掲げておられました。ただそれは１００％非正規の雇用でした。ですのでその時に、そのような雇用形態では良い労働者は皆外へ出て行ってしまうので、質の高い雇用を増やさないとだめじゃないだろうかという話をしました。その委員の中には会社経営者の方もおられて、「それは実態が分かっていない」と言われてしまったんですが、その例からもここでいう５０００人という数字もかなりの割合でそういう非正規雇用というものが含まれているんだろうなと思います。先ほど清水さんが言われたように、転出を抑制するということであるならやはり雇用の質というところにこだわっていかないといけないのではないかなと。この数字だけが独り歩きして成果が出たように見えても目指しているものに直結しないのではないかなと思いました。

**山下恭史委員長：**

確かに難しい問題ですね。例えば鳥取においては地元の正規雇用者よりも誘致企業の非正規雇用者の方が賃金ベースが高い事態も出てきているので、一概に非正規では駄目だよということも言い切れない状況があります。もちろん正規で雇ってもらえる方がいいんですが、一方で労働者側の出入りが激しいことも事実で、企業としては当然ながらある程度フリーな形態の方が良いと思ってしまうということはあります。

ただ、最近の誘致企業の中には初めから正規雇用の割合が高い企業もありますので、それは鳥取市の取り組みの成果かなとは思います。

**清水委員：**

古い考え方かもしれませんがやっぱり終身雇用でないといけません。人材が育っていかないと。

**福山委員：**

まあそれは確かに夢ですけれど、企業側からしたらなかなかそうもいかないというところもありますよね。

**山下恭史委員長：**

今は必ずしも働き手が終身雇用を求めていないということもありますよね。

**福山委員：**

そうです。

**清水委員：**

若い人はね。

**山下恭史委員長：**

若い年代に限らず、業種そのものが従来とは変わってきていますよね。

そのほかご意見はありますか。良ければ最後の ID20 に移りたいと思います。

**山下博樹副委員長：**

よろしいですか。今大学で就職の担当をしておりまして、ちょうど今日の午前中に市内企業の採用の方とお会いしたんですが、今年はＵターン組、要は県外に進学した学生が県内に戻ってきて就職したいという希望のエントリーが少ないと言われていました。この事業では「登録制に基づく、就職情報の配信」というようなことが書いてありますけども、今時の学生はいちいち登録とかしなくてもインターネットでいくらでも情報収集はできますし、そういう就職情報を扱ったサイトもありますので、若者の就職支援という意味ではもっと他にすることがあるのではないかなと思います。

採用担当の方がおっしゃられていたように、どうして県外に進学した学生が帰ってこないのかというところが大きな問題かなと思います。

**清水委員：**

企業自身がもっと積極的にＰＲすべきだと思います。鳥取には小さくても素晴らしい企業がたくさんあります。何でもかんでも大きな企業が良いというわけではなく、人によっては小さな企業でやっていく方が良い場合もありますので、こういうところの発信が足りないんじゃないかと思います。

**山下恭史委員長：**

そうですね。それで経済団体ではインターンシップ制度を実施したりしておりますけれど、それでも根付かない、来てくれないという実態があります。

個人的な話になりますが、今年私の息子も就職をいたしましたが、ここで行われている就職情報発信など、こういうものは見ないです。登録ももちろんしていないですし。山下副委員長が言われたように就職専門のサイトもあるし、学生同士での情報交換もいっぱいしているので、わざわざこの登録制度を利用するに至らないですね。

**清水委員：**

大学に進学して、いざ就職の段階で初めてこういう情報に触れるのではなく、小さい時からの教育が大事だと思います。地元にこんな素晴らしい企業があるんだよということを、子供のころから伝えることが地元への愛着にもつながるし、Ｕターンにつながると思います。

**山下恭史委員長：**

教育の話まで広がると、このIDの内容とだいぶ離れていくので、担当課の広報室にお話しするのが適切か分かりませんが、次回のときにお考えを聞くことにしましょう。

**山下博樹副委員長：**

ここに関連したデータなんですが、今日いただいた資料７に国勢調査の年代別の人口推移を示していただいているんですが、ちょっと年代が大括り過ぎて分からないのでもう少し細かい区分をいただきたいです。それと単に人口が何人この間に増えたか減ったかというだけでなく、例えば１８歳人口が何人出て何人入ってきたかとか、そういう細かい転入出の実態が分かるデータを示していただけたらなと思います。１８

歳の人が２２～２３歳あたりでどれくらい戻ってきたかですとか、あるいは何歳くらいの年代で戻ってくる傾向にあるのかとかそういうことが分析できる情報がないと、どういう取り組みが有効なのかという議論が難しいかもしれません。

**山下恭史委員長：**

確かにそういうデータはおそらくあると思いますね。住みよい田舎で第二の人生をなどといってご高齢の方が移住してきた話がよく新聞なんかにも載っていたりしますがそれは移住者全体から言えばごく一部です。ＵターンＩターン者数という成果で一番大きく占めるのは、やはり働く若い世代がどっと転入してくるというところです。そういう年代別の数や動向を踏まえて、この事業が適当かどうかという議論ができればと思います。

では本日予定していた議題については一応意見が交わせたかと思います。このほか、過去に議論した内容でも構いませんし、その他のことでも構いませんが何かありますか。

**山下博樹副委員長：**

先ほどの ID21～24 についてのことで、いろいろな制度やイベントなどを実施しておられますが、そういうものの情報発信はどういった広報の仕方でやっておられるのかということを教えていただきたいです。

**山下恭史委員長：**

そのほかいかがですか。今時点でなければ、持ち帰っていただいて、改めて資料をご覧ください。そこで追加のご質問や資料請求があれば事務局になるべく早めにご連絡いただきたいと思います。

ではこの６つのテーマについては今お話ししましたが、内容ではなくこれ以外に追加で議題に挙げたいというものがありましたら、それについても早めに事務局にお伝えください。スケジュール的なことも含めて、実際にそれを取り入れられるかはわかりませんが、そのあたりの判断は私と事務局の判断に任せていただきたいと思います。

## ４．その他

**山下恭史委員長：**

ではその他に移ります。日程調整は今日提出いただいたスケジュールをもとに早めにまとめていただいて、７月と８月のものも決定してご連絡ください。

その他、事務局から何かございますか。

**河口課長：**

はい。本日は活発にご議論いただきありがとうございました。本日議題に挙がっておりましたそれぞれのテーマについて、われわれ財政サイドも課題を感じておりまして、現状を少し補足でお伝えさせていただきます。

まず雇用確保に関する ID19 ですが、これは委員長も言われたように背景となる世の

中の動きが変わってきております。私が当課の課長補佐をしていたころは有効求人倍率が 0.8 とかそういう時期でして、当時何が問題かと言えばまずは雇用だろうという状況を受けてこういった取り組みがスタートしております。ただ現在は有効求人倍率が 1.3 とか 1.6 という数字になってきまして、当時とは逆に雇用の流動化が激しくなってきております。課題が雇用の確保から労働力不足に変わってきましたので、いかにそこに政策的に力を注いでいくか、例えば企業誘致を少しトーンダウンさせてでもそちらの方に分配していくという考え方も重要ではないか、というところも議論していますので、そのあたりも含めて担当課とは次回意見交換ができるようにさせていただきます。

若者転入に関する ID20 もですね、ご指摘のとおりであまり大きく効果が出ている制度ではないと感じております。転入を進めて行くにはやはり魅力が大切で、先ほどのご議論でも教育の段階でどうするかというお話がありましたが、鳥取市の教育委員会では昨年度、教育行政の基となる教育大綱というものを改定しております。この中で、いかにふるさとを愛する子供たちを育てるかということも盛り込んでいます。清水委員さんのおっしゃるようにこのことがひいてはＵターンの動機になってくるので、そこを小学校、中学校だけではなく大学まで含めてやっていこうと掲げております。

次に婚活に関する ID21 ですが、これは、県は県で取り組みをしており、市は市で取り組みをしているという状況で、その仕分けが上手にできていません。また指標については成婚組数だけで成果と言えるのかどうかというところも疑問として残っております。そのような委員のみなさまからの視点も担当課に伝えてお答えさせていただきます。

それから不妊治療に関する ID22。不妊治療で悩んでおられる方がたくさんいらっしゃるということは事実でありますので、ここは行政として必ず支援していかなければいけない部分です。子供を産みたいという意思がありながら治療が必要な人にとって、やはり治療に４０万、５０万というお金がかかるというのは大きな負担です。そこでこの助成というのは非常に重要なものでありますので、ここに費用が掛かったとしても、将来へつながるお金だと思いますので行政としては必要であると。こういった視点も含めて担当課からご説明させていただきます。

保育に関する ID23 です。先ほど第２子の無償化をというお話もありましたが、まずここに関して予算がどうのという視点はありません。鳥取市規模の行政であればできることはしっかりやります。ただしそれは本当に必要なことなのかという議論を経たうえでとなります。今、待機児童ゼロを国が掲げていますが、鳥取市はずっと以前から待機児童ゼロを目指して環境整備にしっかりお金をかけてきました。保育料をゼロにするのが良いのか保育環境を整えるのが良いのかという議論はございます。保護者の方からは保育料ゼロよりももっと保育環境を良くしてという意見もありました。そういったことを経て現在は、子供たちを育てる環境をいかにしっかり整備するかとい

うことで鳥取市は動いています。また広く貧困対策というものまで含めて総合的に。担当課からはその視点も踏まえてご説明いたします。

最後に ID24 の放課後児童クラブ。みなさまからの、必要な人に行き届いているかというご指摘はもっともでございます。潜在的なところはいっぱいあると考えておりますのでこれをいかにクリアするかということで取り組んでおりますが、新しく施設を建てると何億円というお金が必要になります。そこで教育委員会が考えているのが、小学校をどれだけ開放できるかということです。とにかく場所を増やしてできるだけ多くの子供たちが児童クラブに通えるような仕組みを作りたい。ただし委員長が言われたように質も上げないといけません。そのために指導員というものも雇用していまして、この雇用を今後どうしていくかというのが次のステージで出てきますので、連合会と協力しながら検討していきます。ここのところもこういった視点を踏まえてご説明いたします。

以上長くなりましたが、本日時点で一度まとめさせていただきます。

## ５．閉会

**山下恭史委員長：**

はい。最後に課長さんから決意表明のようなものもいただきまして、一通り本日の予定された日程は終了いたします。

他に皆さんから何もなければこれで終了したいと思いますがよろしいですか。

では以上を持ちまして、第６回鳥取市行財政改革推進市民委員会を閉会します。ありがとうございました。

---